

社会科 学習指導案

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校 磯 崇仁

1 対象・日時 2年A組 令和6年11月22日(金) 1校時

2 本単元で育成したい資質・能力（評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。	①工業化の進展と政治や社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	①近代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

3 単元「近代の日本と世界～欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き～」について

大項目「C近現代の日本と世界」における中項目「(1)近代の日本と世界」は、幕末や明治維新から第二次世界大戦終結までの歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に理解することを目標にしている。そのうち、本単元「欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き」は「(1)近代の日本と世界」の冒頭に位置付けられ、日本の近代化の背景となる欧米諸国の動きを扱う単元となっている。特にこの単元では「近代化」がキーワードとなっており、これは「近代化と私たち」という大項目が設定されている高等学校地理歴史科の科目「歴史総合」にもつながる内容となっている。しかし、「近代化」という語句は、近代史について課題を追究したりそれを表現したりする上でとても使いやすい語句である一方で、十分な理解がないと安易に使われてしまう可能性のある語句でもある。

そこで、本単元では、社会の様子の変化を多面的・多角的に考察することを通して、「近代化」についての概念的な理解へ到達できるようにしていきたい。単元を貫く問いを「『近代化』とは何か」と設定し、欧米における市民革命、産業革命、国民国家の形成、アジアへの進出の4つの事象を扱いながら「近代化」とはどのような変化を指すのかを説明できるようにしていく。なお、「近代化」の語義については、辞書や辞典、生成AIの活用等によって生徒たち自身で容易に調べることが可能であるが、その説明は要素が書き並べられるのみであったり中学生にとっては難解であったりするものが多い。そこで、本単元では単元末課題を「生成AIに負けるな！ - 『近代化って何ですか？』」と設定し、学習したことを活かして、自分なりの言葉で「近代化」について考察したことを説明できるようにしたい。また、考察する際には、近代化の前後でどのような変化があったのかを明らかにしたり（時期や推移）、近代化した国・地域の共通点やそうでない国・地域との相違点を明らかにしたりする（類似や差異）など、歴史的な見方・考え方を働かせられるように促していきたい。

4 生徒の学びの履歴

これまですべての単元において、課題を追究したり解決したりする活動をベースに学習を展開するため、「単元を貫く問い」と「単元末課題」、毎時間提示する「各時の問い」を設定して単元の学習を構成してきた。「単元を貫く問い」と「単元末課題」については、学習を重ねることで学習前の自分の考えが変容したり深化したりする余地のある問いや課題となるようにしている。

また、学習のプロセスや自分の考えの変容や深化を可視化しやすくするために「一枚式ワークシート」を使用してきた。このワークシートは、各時の問いに基づいて情報を収集したり知識事項を確認したりする「習得ボード」、単元末課題の解決に向けて収集した情報を整理し分析する「活用ボード」、学習前の自分の考えから単元末の自分の考えへの変容や学習の振り返りを俯瞰できる「成果ボード」の3つからなっている。この「一枚式ワークシート」を活用しながら、課題を追究したり解決したりする活動を展開し、深い学びを実現しようと試みている。

5 資質・能力育成のプロセス（8時間扱い、本時 は7時間目）

次	時	評価規準 (丸番号は、2の評価規準の番号)	【 】内は評価方法及び Cと判断する状況への手立て
1	1	知① 欧米諸国が近代社会を成立させたことを理解している。(○)	【行動の観察・ワークシートの記述の確認】 C：生徒とともに資料を確認し、欧米諸国の近代化について読み取らせる。
	2 5	知① 欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどについて理解している。(○) 態① 課題解決に向けて粘り強く情報を収集しようとしている。(○)	【行動の観察・ワークシートの記述の確認】 C：教科書等を活用し、必要な情報をワークシート（習得ボード）に書かせながら、欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどについて整理させる。 【行動の観察・ワークシートの記述の確認】 C：これまでの学習においてできたことや課題などを口頭で確認しながら、ワークシート（成果ボード）に記述させる。
2	6 7	思① 工業化の進展と政治や社会の変化などに着目して、欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動きについて考察している。(○) 態① 課題解決に向けて自らの学習を調整しながら整理し分析しようとしている。(○)	【行動の観察・ワークシートの記述の確認】 C：これまでの学習を通して収集した情報を生徒とともに見ながら、「近代化」の要素となる事象を箇条書きさせる。 【行動の観察・ワークシートの記述の確認】 C：これまでの学習においてできたことや課題などを口頭で確認しながら、ワークシート（成果ボード）に記述させる。
	8	知① 欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。(◎) 思① 欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動きについて、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。(◎) 態① 近代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。(◎)	【ワークシートの記述の分析】 C：これまで学習したことからポイントとなる事象を生徒とともに確認しながら、欧米諸国が近代化を成立させた背景を記述させる。 【ワークシートの記述の分析】 C：近代化の様子を説明する上で、必要な要素を生徒とともに確認することで、自分の考えを表現する支援をする。 【ワークシートの記述の分析】 C：学習前に記述した自分の考えを振り返らせ、授業を通して考えが変容したり深化したりしたことについて口頭で問い、記述させる手助けをする。

主たる学習活動	指導上の留意点	時
<ul style="list-style-type: none"> 近世と近代の様子を提示した資料を基に比較してイメージをもたせた上で、「近代化」という語句の意味について辞書等を用いて調べる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【単元を貫く問い】「近代化」とは何か。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 学習プランを通じて、単元の評価規準や学習計画など、学習の見通しをもつ。 単元を貫く問いに対して、学習前の自分の考えを記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を基に近世から近代にかけてどのような変化が生じたのかを捉えさせる。一方で、「近代化」という語句の意味について、教科書、辞書、生成AIを活用させて調べながら、その理解の難しさに気付かせ、単元を貫く問いの提示へとつなげる。 学習前の自分の考えについて、ワークシート（成果ボード）に記述した内容を確認し、生徒の学習前の状況を把握する。 	1
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【各時の問い】①近世から近代にかけて、欧米諸国の政治はどのように変わったのか。②近世から近代にかけて、欧米の「国家」はどのように変わったのか。③産業革命によって、欧米社会はどのように変わったのか。④欧米諸国はなぜアジアへ進出できたのか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 欧米における市民革命、産業革命、国民国家の形成、アジアへの進出などについて、毎時間提示される問いや学習課題に対して自分の考えを記述できるように、教科書等を用いて情報を収集する。 収集した情報や気づいたこと等を4人班で共有し、他者の考えを追記したり、自分の考えを修正したりしながら、問いに対する自分の考えをまとめる。 情報の収集についての振り返りを記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書等を使って調べる際には、各時の問いに対する自分の考えをまとめるために必要な情報を引き出すように促す。 生徒のワークシート（習得ボード）の記述について机間指導を行いながら、全体へ共有すべき内容については全体指導を行う。 4人班で自分の考えを共有する際には、それぞれがその判断の根拠とした部分に耳を傾けて、自分の考えを赤字で修正するように促す。 生徒の振り返りを確認した際には、代表的なものを取り上げて学級全体に共有しながら、今後の学習へ生かせるようにする。 	2 5
<ul style="list-style-type: none"> 欧米における市民革命、産業革命、国民国家の形成、アジアへの進出などについて、収集した情報を整理して、「近代化」を説明する上で重要な事象や要素を分析する。 分析した内容を4人班で共有し、他者の考えを追記したり、自分の考えを修正したりする。 情報の整理や分析の過程についての振り返りを記述し、今後の学習へ生かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1次で収集した情報を活用して、近代化について多面的・多角的な視点で考察できるようにする。 生徒のワークシート（活用ボード）の記述について机間指導を行いながら、全体へ共通すべき内容については全体指導を行う。 4人班で記述した内容を共有する際には、それぞれがその判断の根拠とした部分を比較しながら、自分の考えを赤字で修正するように促す。 	6 7
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【単元末課題】生成AIに負けるな！ - 「近代化って何ですか？」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 「『近代化』とは何か」という単元を貫く問いについて、単元末課題に即して、自分の考えをまとめる。 深化ボードに、単元の学びを終えて自分の思考がどのように変容したり深化したりしたのかを記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで、近代化について多面的・多角的に考察した成果を発揮して、自分の考えを表現するように促す。 これまで記述した学習前の自分の考え、授業時の振り返り等を参考にしながら、単元末の振り返りをワークシート（成果ボード）に記述し、本単元の学習での成果と課題を、次回以降の単元へつなげられるように意識させる。 	8

6 学びの実現に向けた授業デザイン

【「学びに向かう力」が高まっている生徒の姿】

「近代化」についての概念的な知識を身に付けることに向けた粘り強い取組を行おうとしたり、自らの学習を調整しようとしていたりしている姿。



【「学びに向かう力」を上げていくための指導と評価の工夫】

○観点別学習状況のあり方

1. 「知識・技能」の指導と評価

「C(1)近代の日本と世界」における「ア(7)欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き」で示された知識を身に付けることを目標とする。そこで、単元の前半では、各時の問いを踏まえて情報を収集する活動を通して、欧米諸国における産業革命や市民革命、国民国家の形成、アジア諸国の動きなどについて理解できるよう指導する。その際、各時の問いに対するまとめの記述を点検することで指導に生かす評価を行う。また、単元の後半では、「『近代化』とは何か」という単元を貫く問いについて考察することで、「近代化」について概念的な理解を図るとともに、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解できるよう指導する。ワークシートに記述した単元末課題の取組状況を分析することで記録に残す評価を行う。

2. 「思考・判断・表現」の指導と評価

「C(1)近代の日本と世界」におけるイ(7)で示された思考力、判断力、表現力等を身に付けることを目標とする。単元の後半において、単元の前半で習得した知識を生かして、「『近代化』とは何か」という単元を貫く問いについて、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現できるよう指導する。考察する際には、近代化の前後でどのような変化があったのかを明らかにしたり（時期や推移）、近代化した国・地域の共通点やそうでない国・地域との相違点を明らかにしたりする（類似や差異）など、歴史的な見方・考え方を働かせられるよう促す。考察に向けた情報の整理や分析の場面におけるワークシートの記述を確認して指導に生かす評価を行うとともに、ワークシートに記述した単元末課題の取組状況を分析することで記録に残す評価を行う。

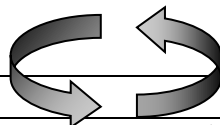
3. 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

近代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養うことを目標とする。「『近代化』とは何か」という単元を貫く問いについて考察するために情報の収集や整理し分析を進めていく中で、学習前の自分の考えを変容させたり深化させたりできるように指導する。また、その過程において学習を振り返る場面を適宜設けることで、粘り強い取組を行おうとしたり自らの学習を調整しようとしていたりできるように指導する。このように単元の途中で記述した振り返りを確認することでその後の学習や指導に生かしていくとともに、単元末にワークシートに記述した振り返りを分析することで記録に残す評価を行う。

○生徒が粘り強さを発揮し、自らの学習を調整するための場面や学習課題の工夫

第一に、学習の過程において、生徒自身の考えが変容したり深化したりする余地のある問いや課題を設定したということである。「『近代化』とは何か」という単元を貫く問いについて、単元の学習の中でさまざまな情報を収集したりそれらを整理や分析したりすることで、生徒たちの考えは少しずつ深化していくことになる。こうした内容のまとまりの中で一つの問いや課題を追究していく活動があつて初めて、生徒が粘り強さを発揮し、自らの学習を調整することができると考えている。

第二に、こうした学習の過程を振り返らせる場面を設けることで、生徒も教師もその学習を可視化できるようにしたということである。「学習前の自分の考えがどのように変わったか」や「学習課題の解決に向けてこれからすべきことは何か」など、これまでの学習を振り返らせる問いを提示して記述させることで、自分自身で学習における良い点や課題点に気付かせ、次の学習へ生かすことができると考えている。



【本單元における、総合的な学習の時間（TOFY）とのつながり】（※「考えるための技法」はゴシック）

- ・ TOFYにおける研究対象となる事象について、様々な側面や視点、立場があることを踏まえて調査を進め、物事を**多面的・多角的に見る**ことができるようになる。
- ・ 学習したことを生かして自分の意見を主張する活動を通して、TOFYにおいて自分の考察を裏付ける根拠を**理由付ける**力が育まれる。